

LED照明:「ジーニア&アーレイ鳥取」、高天井用を開発 商品に大きな期待 / 鳥取

毎日新聞 2月13日(水)18時4分配信

発光ダイオード(LED)商品の企画、開発を手がける「ジーニア&アーレイ鳥取」(鳥取市若葉台南7、畑宏芳社長)は、体育館や工場などで使われる高天井用LED照明を開発したと発表した。現在使われている水銀灯に比べ消費電力は35%以下で、使用可能時間も約5万時間と約4倍に伸びるという。

従来のLED照明は、複数のLEDをリード線を使い手作業でつないでいたが、新商品は独自技術でLEDをアルミ基板に付けることに成功。全て機械による組み立てが可能になり、作業効率や品質が向上したという。LEDの数を調節することで、スタジアムなどに必要な高照度照明も可能という。

同社は3月以降、市内の企業に委託し、年間300~500個を生産する予定。国内だけでなく、電力が不足しているベトナムやインドネシアなどの新興国での需要も見込んでいる。LED基板を輸出し、その他の部品との組み立てを現地企業で行うことで、雇用創出にもつなげたいという。

同社は一昨年6月に県や鳥取市が企業誘致した。畑社長は「かなり勝負できる商品。他企業に先駆けて、体育館や工場の照明でシェアNO1を狙いたい」と意気込んでいる。【川瀬慎一郎】

2月13日朝刊